

フルマラソンを走る夢

阿波の国。8月中旬ともなると徳島市内のあらゆる場所で
連が群がり、民衆のエネルギーが熱く沸き上がる。
近年、春と秋に「マチ★アソビ」なるイベントが行われ
駅前には思い思いのアニメコスプレの若者たちで溢れかえっていた。
伝統とニューウェーブが徳島の街を織りなしていく。

川真田さんの手話との出会いは、
長女の同級生のお母さんが
戎さん(徳通研会長)だったことから。
ともに手話サークルへ子連れで通われた
長いお付き合いである。
川真田さんは事務局長として、会長とともに
徳通研を動かす動力の両輪である。
議事の進行には、安定した重みのある説得力から
ベテランの力を感じた。

川真田 光子

徳島県



徳島県立障がい者交流プラザ
視聴覚障がい者支援センターの職場の仲間たち



徳通研のメンバーたち



山登りが趣味で、バレーボールにテニス、そして弓道初段の腕前をもつスポーツマンである。

一見おとなしそうにも見えるイメージとは違い、

パワフルな行動力は、引き締まるふくらはぎにも見て取れた。

盲ろう者はスポーツをする機会が少ないので、盲ろう者にもスポーツが楽しめる環境づくりを目指している。

徳島マラソンにも参加したいので、弱視ろうの友人と「フルマラソンを走る！」を合言葉に、

目標を立てている。

障害者スポーツ指導員の初級資格を生かし、

ボッチャ普及員として県内のボッチャ(パラリンピックの正式種目)大会でも審判や運営のお手伝いをしている。





日々の仕事や活動を支えてくれる
家族への感謝の気持ちは大きい。
ご主人の理解もあり、
毎日のように、夕食の準備のために
3歳の孫と長女がやって来てくれるのが何よりうれしいと言う。

吉野川に沈む夕日を見ながらの帰路は、
やり遂げた仕事への満足と、
明日への意欲にとつながっている。



写真/文 松本 博